

平成 18 年 8 月

## 美容外科とは

所長 稲垣 一則

毎年、約 7、700 人の国家試験合格者がでている医師社会。数的には益々飽和状態になっていくはずなのに、最近の新聞紙上では、「産婦人科、小児科の医者数が減少」との記事。社会的な問題になっています。

医師の人事を大学に依存している自治体病院では、特に深刻であり、さらに大学でも医師不足の傾向にあり、これは研修医の大学離れと若い医師の開業ブームが主な原因であるようです。若手勤務医の開業は大都市に集中し、診療科別では増えているものの、産婦人科・小児科が減り、内科が圧倒的に増えているとのこと。特に産婦人科を志望しない理由として、「不規則な時間による診療業務負担」「医療過誤による損害賠償」「少子化による経営的な問題」等々があげられています。

他方、美容外科で有名な女医の娘さんの誘拐事件が少し前ありました。幸いにも 13 時間という短時間で解決しホッと一安心といったところですが、事件とは別に母親の「時間給 100 万円」「年収 1.2 億」といったセレブ面が興味を持たれ報道されています。

この美容外科（以前は美容整形といていた）診療科目でいえば、形成外科のひとつであり、組織の異常、変形や欠損などの「疾患」を治療対象とする「再建外科」に相對し、客観的には病気と認められない細微な形態変化の外科的修復をなすものとして、生活の満足度を向上させる分野として独立した標榜科となっています。

最近のある新聞によると、この「美容外科」を診療のメインとして開業する医師が増えているとのこと。自費診療で請求額も自由に設定でき、端的に言えば「儲かる商売」である。ただ、それが、有名女医のように、マスコミにでて、数千万円する高級車を現金で買う、といった生活ぶりを見せられると、「1 時間で豊胸手術して 100 万円、それって、医師のやることなの・・・」「生活の満足度を向上させる」って何、とってしまうのです。

この世界にも格差社会の影があるように思えます。

【参考】・(社)日本形成外科ホムペ - ジ参照